「教育実習体験レポート」

［公立中学校　国語］

今回の実習で学んだこと、感じたこと、考えたことを教科に関すること、生徒に関することの二点に重点を置いて述べていく。

まず教科に関して述べる。国語科という生徒が題材に対して自分の考えを持ち、それを文章に書き表したり、発言したりする教科を教える難しさを痛いほど感じた。また、思考力・判断力・表現力はそれぞれに相互しあっているため、表現力の部分を多く担う国語科の重要性に改めて考えさせられた。国語で培った表現力が他の教科にも大きく影響するため、国語科を教える立場として責任の重さについてよりいっそう考えさせられる実習期間だった。担当した教材が物語文だったので、物語に対して生徒それぞれが自分の考えを持って交流することで、その多様性に気づき、自らの理解をより深められるような授業方針を立てた。担当した授業全体を通して、生徒に自由な発言を促したり、動画を見ることや創作的な活動をしたりすることで単調でつまらないと思われるような授業ではなく、活発で楽しい授業を行うことを心がけた。全ての授業が終了したときに生徒に楽しかったという感想をもらえたのでこの目標に関しては達成することができたと思う。
さらに、担当した学年以外の授業を見学していて感じたことは、扱う教材が同じでも先生によって取り入れる活動内容が全く異なっているということだ。同じ単元目標のもと先生方がそれぞれに工夫をして授業に向き合っているのだと実感した。加えて、1つの学年を複数の先生で担当する場合の情報共有の重要性にも気づくことができた。先生方にとってはごく当たり前のことだと思うが、実際に目の当たりにしてどんなに小さなことでも共有する重要性を学ぶことができた。

次に生徒に関して述べる。今回この教育実習で初めて教師側の立場になったときに、先生方は常に生徒のことを一番に考えていて、いつでも頭のなかに生徒のことがあるのだと実感した。実際に生徒にぴったりと寄り添っている姿を見て、教師という職業のあり方を知ることができた。また、先生方はみなさん教師という仕事にやりがいを持っていると感じ取ることができた。

現在の〇〇〇中学校は生徒ひとりひとりに寄り添っているという印象を持った。別室で授業を受けたい生徒へのフォローが充実しているのを知り、学校のあり方は時代に合わせて変化していくべきものであると実感した。

今回の実習期間には中間テストがあったため、テスト前後の生徒の様子を観察することができた。特に担当の学年が 1 年生で中学生になって初めてのテストということで、生徒はどこか緊張しているような表情を見せていた。一方で、テスト終了後に下校指導をしてい

ると、どの学年の生徒も開放感に満ち溢れた表情だった。今回 3 週間の実習期間でも生徒の表情に注意して関わることの大切さを実感した。実際に教員になった際には、普段から生徒を注意深く観察することで何か問題が起こったときにも速やかに解決に導くことができるのではないかと思う。

さらに、生徒のやる気を引き出すような声かけが重要だと知った。そのように考えたきっかけは 2 つある。1 つ目は、道徳の授業中に検診が入ってしまい、男子だけで授業を進めることになったときに、生徒から休みたいとの声が上がったことである。そのときに「みんなと道徳進めたい！今日しかできひんから！」と言うと、意欲が引き出されたのか、生徒が授業に前向きな姿勢を見せてくれた。2 つ目は、国語の授業中にワークシートに取り組むことができない生徒への声かけである。それぞれの生徒が取り組みたくない理由を感じ取り、それぞれの生徒に合わせた声のかけ方に心がけた。その効果もあってか、授業を重ねるにつれて自分から取り組んでくれる生徒が増えたような気がした。

この実習期間で教師という仕事の大変さとそれを上回るやりがい、そして先生方の授業や生徒指導に対する熱い思いを感じることができた。未熟で迷惑をかけてばかりの私をあたたかく受け入れてくださった先生方、そして授業を受けて楽しかったと言ってくれた生徒たちに感謝し、この実習で学んだたくさんのことを将来に活かしていきたい。